

2017 年度 事業計画書

2017 年 3 月 27 日

2017年度 事業計画書

1 2016年度の振り返り

一般財団法人リプレット基金事業財団（以下財団）は、2016年度は、基幹事業である、「児童養護施設への自転車寄贈事業」（以下自転車寄贈事業）を、中高生用自転車の既存事業と小学生用自転車のJKA（競輪・オートレース振興法人）補助事業として行い、寄贈エリアの拡大、及び、寄贈台数の安定化を図りました。また、関連団体の協力を得て自転車贈呈式及び自転車教室を開催し、新聞、テレビ、ラジオ、WEBニュース等で活動が取り上げられました。同事業を実施してから、累計で寄贈先児童養護施設462施設、寄贈自転車台数823台を数えるに至っています。

加えて今年度は、新たに、「自立支援事業」として、NPO法人ブリッジフォースマイルを通して、児童養護施設の子どもたちへの、奨学金プログラム「カナエール」への支援を開始しました。

その他には、支援団体先のイベント等で募金活動を行い、募金促進のために、一定額の募金者へピンバッジの進呈をしました。また、財団紹介VTRのリニューアル、Facebookでの広告配信等、対外的及び支援者・関係者向けに、活動の様子をよりアピールすることができました。

2 2017年度の基本方針

財団は、設立から2017年度に8期目を迎えます。2017年度も、児童養護施設の子どもたちへの「自転車寄贈事業」と、「自立支援事業」を主な事業として行って参ります。

「自転車寄贈事業」は、活動が評価され、継続してJKA補助事業として認定されたため、昨年度同様、既存事業とJKA補助事業として行います。

「自立支援事業」は、児童養護施設の子どもたちへの、奨学金プログラム「カナエール」への支援を拡大して行います。また、その他団体等への支援も、連携を進め引き続き実施して参ります。

基金拡大のための施策として、更なる認知度の向上及び寄付収入の獲得を目指し、財団の活動の様子を、新たに、様々な媒体を活用し積極的にPRしていくことで、認知度向上を推進し、また、財団の支援団体や、自転車関連イベント等での募金活動を行い、新たな支援者の拡大と、寄付収入の獲得を行ってまいります。以下に事業計画の概要を提示します。

3 事業計画概要

1) 自転車寄贈事業

2017年度は、既存事業とJKA補助事業を、並行してすすめて参ります。自転車贈呈式については、関連団体等と協力の上、参加する子どもたちに喜ばれるよう、同時に自転車教室等を実施していきます。

また、メディア等へ取り上げて貰えるよう、積極的に働きかけ、認知度向上を図ります。更に、自転車を寄贈した施設に、アンケートを配布、自転車の利用実態調査等を行い、一般的には、あまり知られていない児童養護施設の現状を、HPやリポートレポート等で、対外的にアピールし、社会の関心を集めるとともに財団の活動への理解を深められるよう努めます。

(A. 既存事業)

全国2地域、全22施設、中高生用自転車台数22台と設定します。(表1を参照)
 自転車購入単価は25,000円(送料防犯登録料含)とし、
 2017年度既存事業自転車総購入費は550,000円となります。

表1) 2017年度 児童養護施設自転車寄贈予定(既存事業)

配布時期	施設数計	配布数計	配布エリア
第1回(6月~7月)	10施設	10台	山口
第2回(8月~9月)	12施設	12台	熊本
合計	22施設	22台	

(B. JKA補助事業)

全国の施設対象、施設数50施設、小学生以下用自転車台数100台と設定します。
 (表2を参照)
 自転車購入単価は25,000円(送料防犯登録料含)とし、
 2017年度補助事業自転車総購入費は2,500,000円となります。

表2) 2017年度 児童養護施設自転車寄贈予定(JKA補助事業)

配布時期	施設数計	配布数計
第1回(6月~7月)	10施設	20台
第2回(7月~8月)	10施設	20台
第3回(8月~9月)	10施設	20台
第4回(9月~10月)	10施設	20台
第5回(11月~12月)	10施設	20台
合計	50施設	100台

2) 児童養護施設の子どもたちへの自立支援事業

準備が整わないまま、自立をせまられる児童養護施設の子どもたちが、健全な社会生活を送れるように、自立支援活動として、NPO法人ブリッジフォースマイルを通して奨学金プログラム「カナエール」への支援を拡大して参ります。

3) その他団体への支援活動

これまで同様、財団の理念に合致する団体・法人等へ支援を行います。

4) 基金拡大のための施策

認知度向上及び寄付収入の獲得を目指し、まず、支援団体や、自転車関連イベント等に財団として参加し、PRを行うことで、認知度向上を進め、加えて、募金活動を積極的に行い、一定額の募金者へピンバッジ等のグッズを進呈することで、新たな支援者の獲得及び募金の促進を行います。

また、財団の活動の様子等を、HPやSNS、リブレットレポート等を利用するだけでなく、新たに、自転車関連の雑誌やWEB他、様々な媒体を活用し積極的にPRをすることで、財団の認知度を高めて参ります。

更に、賛助会員及び支援企業の拡大を行うことで、収入の安定化に繋げてまいります。その他、新たな寄付方法（例：古本・DVD等の回収等）の策定を行い、寄付方法の選択肢を増やすことで、新たな支援者の獲得へ繋げて参ります。